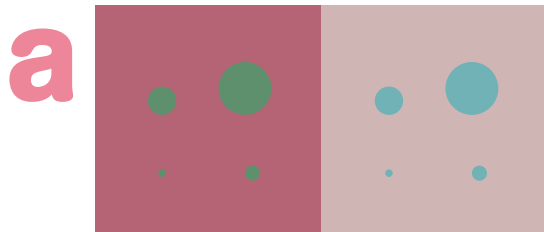




# 視力のピンチは脳のピンチの可能性

目は脳の鏡、脳の延長と考えられています。子供の視力の発達に注意していると、脳の発達の様子もわかります。3歳までに視力の異常に気づくことが重要です。

**Qa** しかくの中にマルはいくつ？



a 8つです。

**Qb** ピンクのシャツを着ている動物は？



b 右のほうにいるトラです。

**Q** マルを描いて、描き始めの線とつなげてみよう



小さな絵柄がしっかり見えない、マルの線の引き始めと終わりが繋がらない。この場合、視力だけの問題ではないかもしれません。その際は1日も早く専門医に相談しましょう。早ければ早いほど視力や能力の治療が有利になります。

## 視覚から入る刺激が脳を育てる

ものが見えるということは、単に目だけで見えているわけではありません。目というマシンから入った情報が脳に伝えられてはじめてものが見え、脳が反応してそれが何かを認識することになります。つまり目は脳の一部と言えるのです。

子供の脳はこのような視覚情報の刺激の繰り返しによって成長します。ですから視力のピンチは脳が健全に発育しないというピンチである可能性を大いに含んでいるのです。

## 色弱はピンチではない？

赤色や緑色の区別がつきづらい人は同じクラスにも何人かはいます。鮮やかな赤いリンゴがセピア色に見えたりする現象で、色弱と言われます。

しかし、この色弱は脳の大ピンチではありません。多くの子供は不便さを克服するために自分で訓練して、みんなと同じように生活しています。

鮮やかで美しい配色の傑作を残したヴァンゴッホは色弱だったと言われていています。日本の著名な画家の中にもいます。

## 視覚デザイン研究所のえほんで問題が早期発見できる

視覚デザイン研究所の絵本には視力障害に気づきやすい仕掛けがあふれています。一緒に見ながら話し、気づいたら、必ず専門医に相談しましょう。

三歳児健診は大切な1歩です。

